



※このお知らせは、米国時間 2010 年 2 月 12 日にアジレント・テクノロジーズ・インクが発表したニュースリリースを、アジレント・テクノロジー株式会社が和訳・要約したものです。

<お知らせ>

2010 年 2 月 15 日
PRCOPR10-04

アジレント・テクノロジーズ・インクが 2010 年度第 1 四半期の業績を発表

概要

- GAAP ベースの純利益は 7900 万ドル、1 株あたり利益は 0.22 ドル
- 非 GAAP ベースの純利益は 1 億 3500 万ドル、1 株あたり利益は 0.38 ドル (*1)
- 受注高は前年同期比 9%増の 12 億 2000 万ドル、売上高は前年同期比 4%増の 12 億 1000 万ドル
- 年間 5 億 2500 万ドルの削減に寄与する事業再構築策はほぼ完了
- 第 2 四半期の非 GAAP ベースの 1 株あたり利益のガイダンスは 0.38~0.42 ドル (前年同期は 0.13 ドル (*3))
- 2010 年度通期の売上高はおおよそ 10%増の見込み。非 GAAP ベースの 1 株あたり利益は 1.65~1.70 ドルの見込み

アジレント・テクノロジーズ・インク (社長兼 CEO : ビル・サリバン、本社 : 米国カリフォルニア州サンタクララ、NYSE:A、日本法人 : アジレント・テクノロジー株式会社) は、2010 年 1 月 31 日で終了した第 1 四半期の売上高が前年同期比 4%増の 12 億 1000 万ドル、GAAP ベースの純利益は 7900 万ドルで、希薄化後の 1 株あたり利益は 0.22 ドルであったことを発表します。前年度第 1 四半期の GAAP ベースの純利益は 6400 万ドルで、1 株あたり利益は 0.18 ドルでした。

第 1 四半期には、事業再構築費用および資産評価替え費用として 4800 万ドル、非現金の減価償却費用として 1000 万ドルを計上しています。これらの項目、および 200 万ドルのその他の費用を除くと、当社の調整後の第 1 四半期の純利益は 1 億 3500 万ドル、1 株あたり 0.38 ドルでした。同じ基準で比較すると、当社

の前年同期の利益は 7200 万ドル、1 株あたり 0.20 ドルでした。

アジレントの社長兼最高経営責任者であるビル・サリバンは次のように語っています。

「昨年後半から当社が感じていた経済の勢いは、今年度第1四半期も継続しました。第1四半期の売上高は12億1000万ドルとなり、2四半期連続で増加しました。また、前年同期比では4%増となっています。」

第1四半期の電子計測事業の売上高は前年同期と比べて2%減少していますが、受注高は8%増となっています。産業向け、コンピュータ、半導体関連のビジネスが底堅くなっています。化学分析事業は前年同期比で、売上高が13%増、受注高は12%増となりました。ライフサイエンス事業は前年同期比で、売上高が10%増、受注高は9%増となりました。

「市場が回復するにつれ、当社の事業モデルの力が現れ始めたことから、非GAAPベースの1株あたり利益は0.38ドルとなり、当社の見込みを大きく上回りました。損益分岐点売上高を5億ドル以上引き下げるという事業再構築策の成果が、第1四半期の業績にはっきりと表れてきました。景気回復の初期段階ではありますが、当社では既にサイクルの半ばで計画していた15%の粗利益と、21%の投下資本利益率(*2)を達成しています。」

第1四半期の投下資本利益率は21%となりました。前年同期の投下資本利益率は11%でした。在庫日数は19日改善し93日となりました。売掛金回収日数は2日改善し47日となりました。季節変動の影響で落ち込んだ第1四半期の営業キャッシュフローは3000万ドルとなりました。第1四半期末時点で12億ドルの現金を有しています。

今後の見通しに関して、サリバンは次のように語っています。

「景気回復の初期段階にあることは確かなようですが、当社の受注高から判断すると、その回復はゆったりとしたペースが続くでしょう。年明け以降は多くの市場や地域に回復が広がっています。」

「第2四半期の売上高は、前年同期比12~15%増になると見込んでいます。非GAAPベースの利益(*3)は、1株あたり0.38ドル~0.42ドルと見込んでいます。前年同期の非GAAPベースの1株あたり利益は0.13ドルでした。2010年度通期

の売上高はおよそ 10%増、非 GAAP ベースの 1 株あたり利益は 1.65~1.70 ドルとなる見込みです。」

第 1 四半期、当社は提案済みのバリアン社買収に関し、欧州委員会 (EC) から、独占禁止法上の条件付き承認を得られたことを発表しました。当社は EC からの要求に対応すべく、複数の資産の分離を行っている最中です。米国連邦取引委員会からの承認はまだ得られていませんが、当社では、欧州委員会が要求した以上の条件を FTC から求められることはないと思込んでいます。

事業ごとの業績

化学分析事業

(注意書きがあるものを除いて、単位は「百万ドル」)

	FY10Q1	FY09Q4	FY09Q1
受注高	242	238	216
売上高	244	225	216
粗利益 (%)	55%	55%	55%
営業利益	67	62	57
資産	529	463	490
投下資本利益率 (%) (*2)	60%	59%	45%

化学分析事業の受注は前年同期比12%増の2億4200万ドルとなりました。現地通貨基準では7%増となっています。売上高は前年同期比13%増の2億4400万ドルとなりました。ドル安のため、現地通貨基準では9%増となりました。地域別で見ると、アメリカ地域は3%減となったものの、欧州および日本が20%増、日本を除くアジア地域が23%の大幅増となりました。市場別では、食品、石油化学、環境、その他の応用市場など、一様に2桁増となりました。製品別では、新製品が寄与したGC/MSおよびICP-MSが特に好調でした。

第 1 四半期のこの事業の利益は 6700 万ドルとなりました。売上高が 2800 万ドル増加するなか、利益は 1000 万ドル増加したことになります。売上高の増分のうち、なんと 38%が利益に寄与したことになります。粗利益は 55%と安定しており、営業利益率は前年同期と比べて 1.5 ポイント改善し 27.5%となりました。この事業の投下資本利益率 (*2) は 15 ポイント改善し、60%となりました。

ライフサイエンス事業

(注意書きがあるものを除いて、単位は「百万ドル」)

	FY10Q1	FY09Q4	FY09Q1
受注高	336	352	307
売上高	340	319	309
粗利益 (%)	54%	54%	55%
営業利益	55	47	44
資産	1,162	1,019	1,074
投下資本利益率 (%) (*2)	21%	19%	16%

第1四半期のライフサイエンス事業の受注は前年同期比9%増の3億3600万ドルとなりました。現地通貨基準では4%増となっています。売上高は前年同期比10%増の3億4000万ドルで、現地通貨基準では5%増となりました。製薬およびバイオテック市場の売上高は前年同期比8%増、学術・政府市場も8%増、食品分析市場は22%増となりました。地域別ではアメリカ地域が3%増、欧州が9%増、アジアが25%の大幅増となりました。製品別では、LC およびマイクロアレイが特に好調で、前年同期比15%増となりました。

第1四半期のこの事業の利益は5500万ドルとなりました。売上高が3100万ドル増加するなか、利益は1100万ドル増加したことになります。売上高の増分のうち、なんと36%が利益に寄与したことになります。粗利益は54%と安定しており、営業利益率は前年同期と比べて2ポイント改善し16%となりました。この事業の投下資本利益率(*2)は5ポイント改善し、21%となりました。

電子計測事業

(注意書きがあるものを除いて、単位は「百万ドル」)

	FY10Q1	FY09Q4	FY09Q1
受注高	642	684	592
売上高	629	623	641
粗利益 (%)	57%	56%	54%
営業利益	58	40	▲6
資産	2,243	2,084	2,286
投下資本利益率 (%) (*2)	13%	10%	0%

第1四半期の電子計測事業の受注は前年同期比8%増の6億4200万ドルとなりました。現地通貨基準では6%増となりました。2008年初頭以来、初めて上向きに転じました。売上高は前年同期比2%減の6億2900万ドルとなりました。産業向け、コンピュータ、半導体関連の売上高が前年同期比13%増の4億2600万ドルとなりました。無線端末製造市場の冷え込みが続いていることから、通信関連の売上高は前年同期比23%減の2億300万ドルとなりました。地域別ではアメリカ地域および欧州が前年同期比3%減、日本が26%減、日本を除くアジア地域が16%増となりました。

第1四半期のこの事業の利益は5800万ドルとなりました。この事業における事業再構築がうまく進んだこともあり、売上高は1200万ドル減少したものの、利益は6400万ドル改善しています。粗利益は3ポイント改善し、57%となりました。また、営業利益率は10ポイント改善し、9%となっています。この事業の投下資本利益率(*2)は13ポイント改善し、13%となりました。

#

このお知らせに関する報道関係者各位からのお問い合わせ先：

広報担当 関

電話：042-660-8426

アジレント・テクノロジーについて

アジレント・テクノロジー (NYSE:A) は、コミュニケーション、エレクトロニクス、ライフサイエンス、化学分析市場における世界のプレミア・メジャメント・カンパニーであり、またテクノロジー・リーダーでもあります。16,000名の従業員を擁し、110カ国以上でビジネスを展開しています。アジレントは、2009年度、45億ドルの売上高を達成しました。アジレント・テクノロジーの情報は、以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.agilent.co.jp>

将来の見込みに関する記述について

このニュースリリースには、Securities Exchange Act of 1934 で定義された将来の見込みに関する記述があり、この法律に規定されたセーフハーバーの規定の効果が及びます。この将来の見込みに関する記述には、アジレントの将来の売上高・利益・収益性に関する情報、当社製品やサービスの将来の需要、2010年度第1四半期および2010年度通期の売上高および非GAAPベースの利益についてのガイダンス、バリアン社買収計画、事業再構築計画（対象範囲、実施時期、費用等）などがありますが、これらに限りません。これらの情報にはリスクと不確かさが含まれており、アジレント・テクノロジーの実績が、結果として経営陣の現在の予想と大幅に異なることもありえます。そのようなリスクと不確かさには、バリアン社買収に関する規制当局の承認の可否および承認時期、バリアン社買収完了の前提となる条件の充足、当社のお客様の事業状況における予測不能の変化、現在および将来の製品や技術の要求における予測不能の変化、計画中の事業再構築の実施に伴う米国および各国の労働法やその他の法律に準拠するための費用や遅延、景気や世界の信用・株式市場のさらなる悪化により計画中の事業再構築に変更が生じるリスク、事業再構築による費用削減が期待どおりとならないリスクなどがありますが、これらに限りません。

さらに、アジレントが事業を行なっていく上で直面する他のリスクもあります。例えば、コストの削減を継続しながらビジネスサイクルにうまく対処していく能力、コスト削減の目標を達成しその利益を享受していく能力、ビジネス状況の変化に合わせたコスト構造をうまく採用していく能力、競合・価格・粗利益に対する圧力、コスト削減が製品開発力、競争力維持、業務効率に影響を与えるリスク、地政学上の不透明さや全世界の経済状況が当社の営業、市場およびビジネスを運営する能力に与える影響、需要の変化に合わせて資産管理を改善していく能力、新製品を適切なタイミング、適切な価格、適切な方法で成功裏に投入していく能力、その他のリスクがあります。これらのリスクの詳しい説明は、2009年10月31日に終了した会計年度のForm 10-Kの年次報告書などの米国証券取引委員会の書類に記載されています。将来の見込みに関する記述は、アジレントの経営陣の考えや仮定に基づいており、現在有効な情報に基づいています。アジレントは、将来の見込みに関する記述を公に更新する義務を負いかねます。

- *1 調整後の純利益、調整後の1株あたり純利益は非GAAPベースのものです。これらは、主に事業再構築や資産評価替え費用、事業体制変革のコスト、減価償却費用、および税効果を除いたビジネスの処理にともなう利益や損失などを除いたものです。

- *2 投下資本利益率は非 GAAP ベースのもので、営業利益（損失）から、「その他の（収入）支出および税金の年額を直近の 2 四半期の四半期終了時の資産の平均から、現在の負債を減じたもので除したものを減じたもの」として定義されています。

- *3 2010 年度第 2 四半期および 2010 年度通期の 1 株あたり純利益の見込みは非 GAAP ベースのもので、主に将来の事業再構築や資産評価替え費用、減価償却費用などを除いたものです。除外した費用のほとんどは、まだ起こっていない出来事や、現時点では極めて高い精度で予測することが困難な出来事に関連するものです。そのため、GAAP ベースで再計算した値は提供しておりません。将来の無形資産の減価償却費は、四半期あたり約 1000 万ドルと見込んでいます。